

令和5年度第2回室戸市総合教育会議議事録

1. 日 時 令和6年1月11日（木）午後3時～

2. 場 所 室戸市役所2階第1会議室

3. 出席者

（構成員）

室戸市長植田壯一郎

室戸市教育委員会

教育長百田貴昌

教育委員多田明美

教育委員和泉久美子

教育委員植野真由美

（オブザーバー）

副市長黒岩道宏

総務課長濱田亮士

こども子育て支援課長辻さおり

（事務局）

学校教育課

課長山本康二（教育次長）

主監小松武志

課長補佐村上久美

学校教育班長高崎正太

生涯学習課

課長和田美紗子

課長補佐山中靖

4. 欠席委員教育委員佃美保

5. 議事

(1) 保育所及び小中学校適正規模・適正配置実施計画について

6. その他

（小松主監）

定刻より少し早いですが、皆さんお揃いになりましたので令和5年度第2回の総合教育会議を始めさせていただきたいと思います。私は学校教育課小松と申します。今回も前回の総合教育会議と同様、市長と教育委員の協議に重点を置くため、市長が議長

を務めずに事務局の方で進行させていただきますので、どうぞよろしく申し上げます。それでは、会議次第に沿って進めさせていただきます。なお、今日は佃委員さんが欠席となっています。開会、市長挨拶、植田市長より開会の挨拶をお願いします。

(植田市長)

本日は令和5年度第2回となります総合教育会議を開催しましたところ、教育委員の皆様方には、ご多用の中ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から市の教育行政の振興、発展にご尽力を賜りまして、併わせてお礼を申し上げたいと思います。この総合教育会議は、市長部局と教育委員会が教育の課題、そして目指すべき姿を共有した上で意見交換を行い、今後の本市の教育行政に活かしていく場所でございます。本日の議題は、保育所及び学校適正規模・適正配置実施計画についてでございます。南海トラフ地震の脅威から子どもたちの命を守り、少子化による教育課題の解決のため、本市における学校の適正規模・適正配置につきまして、令和2年度から検討を始め、検討委員会の開催や地域説明会などの実施を経て、様々なご意見がある中で方向性を決定する時を迎えた次第でございます。この間、教育委員の皆様方におかれましては、定例会での議論や学校訪問など、長期間にわたり大変、重責の中、ご尽力を賜りに感謝を申し上げます。本日は、教育委員会が出された方向性について説明をいただき、その後、委員さんから忌憚のないご意見をいただき、より良い議論ができればと考えております。そして、本日の議論を踏まえまして、市としての方向性を決定してまいりたいと考えておりますので、どうかよろしく申し上げますと申し上げまして、開会のご挨拶にかえさせていただきます。

(小松主監)

ありがとうございました。室戸市総合教育会議の構成員は、市長および教育委員会と規定されております。クリップ止めの会議次第を1枚めくっていただくと名簿を載せておりますのでご確認ください。本日はオブザーバーとして、黒岩副市長、濱田総務課長、辻こども子育て支援課長にご出席をいただいております。よろしく申し上げます。それでは、議事に入ります。保育所の学校適正規模・適正配置実施計画について、事務局より説明をお願いします。

(山本教育次長兼学校教育課長)

(資料に沿って説明)

(小松主監)

学校教育課からの説明が終わりました。ここから協議及び意見交換とさせていただきます。教育委員会としての方向性は決まりましたが、まずは教育委員の皆様が先ほどの説明以外の内容でも構いませんので、統廃合に関する意見や思いがございましたら、出していただけたらと思います。出された意見につきましては、市長のお考えについてもお聞かせいただけたらと思います。それでは、よろしく申し上げます。多田委員さんお願いします。

(多田委員)

委員会の決定、方向が決まったということで、それに向けて協力させていただきたいと思っておりますが、選択肢として学校を残すということではなくて、大きい学校へ行けない子どもたちが現実いるっていうことを忘れないでいただきたい。それを研究所であるとか、そういうところがあるからいいんじゃないかっていう風には片付けてもらいたくないと思っております。やっぱり、中学校を卒業するっていうことが、その子どもたちにとっても、大きなステータスというか、気持ちが違うと思うので。少数の子どもたちをとりこぼさないように、ぜひお願いいたします。

(小松主監)

先程の件について、市長お願いします。

(植田市長)

ありがとうございます。全くその通りだという風に思います。基本、そういったことがベースになって、統合するという学校を考えなければならないと思います。あちこちの説明会へ行っても、コメントなんかを見せていただいても、やっぱりそうしたところの、教育に関しての意見は非常に熱く言われてるんじゃないかなと受け止めてますので、1つの中学校になっても、そうした配慮を十分に検討するような学校のあり方というのは当初からも申し上げております。

(多田委員)

大きな学校へ行けなくて、わざわざ校区外の小規模校に通っておられる生徒さんたちが複数おいでますので。

(植田市長)

そうしたことに対応しないといけない。このパブリックコメントだとか地域の声だとかの意見を見た時に、子どもたちのそうした意見、それと選択ができるように学校は大小2つあってもいいんじゃないかとか、また外部からも前にご意見いただきましたけど、そうした考え方もあろうかと思いますが、私も今回のこの中学校の統合の問題を捉えて、室戸市の全体の子どもたちの数を、今後将来的に見た時に子ども数が減って1つになっても小さな学校でしかない、といったことを考えると、何かの対処が必要でありますけれども、やっぱり1つになって頑張っていけるような体制にご協力をしてもらうことが子どもたちのために大事ではないかなということをおもっております。

(多田委員)

目に見える障害については、例えば多目的トイレを作るとか、リフトを設置するとか、結構手厚くされてありがたく思っておりますけど、目に見えない障害とか、目に見えないものを持っている子どもたちに対するケアっていうのが、それこそ目に見える形ではなされていない気がしておりますので、スクールカウンセラーの先生方に大変ご協力いただいておりますけど。1つの学校になった時に色々難しい面があるのではない

かと思えます。

(植田市長)

ありがとうございました。

(小松主監)

他に委員の皆さん。

(和泉委員)

多田委員がおっしゃったこと、それも私も同感です。今室戸市の子どもも、室戸市内で育っていく、そこで教育を受けるっていうことが本当に理想だと思っています。1つの学校になった場合、それはどうなのか。いろんな手立てをこれから考えていく必要があるということを感じたいと思います。教育委員会の方向で決まったこと、それは決まったことで、より良い方向に私も考えていく、そういう風に思っております。ただ、ちょっと気がかりなことがあるので、市長に聞いてもらいたいという風なこともあります。南海トラフに関しましては、高台移転と、防災教育、それもこれからもなされていくという風に思っています。次長から3つの観点が示された2つ目のことです。学校適正規模・適正配置、これは、私は今までの教育委員会の定例会の意見交換の中で、もう1つ小さい学校を残したらどうかっていうことを話しました。それは、資料の中でご承知のように、佐喜浜地区の保護者の意見がすごく強くって、やっぱりそういう声を生で聞いていると、単なる数だけで判断するのは、今はどうかってことを考えました。高知県内でも、統合をたくさんされています。数のうえで、でも、室戸市も他と同じことをしなくてもいいんじゃないかっていうことも考えました。でも委員会で決まったこと、より良い学校を作らないといけない。そのためには、子どもたちが当たり前前の日常の学校生活を送れるような、そんな学校をぜひ作ってほしい。そのための施策をしていただきたいという風に考えております。観点の3つ目の地域のことですが、説明会、意見交換会、そしてパブリックコメントも、すごく熱い思いが、保護者、地域の方から出されていました。心に今残るのは、佐喜浜地区の地域の保護者さんたち、その統合の時に、対象になる保護者さんたち、その方たちの思いっていうものを、これから話を進めていく上で大事にしていきたい、という風に考えております。不安材料がたくさんあるわけですね。だから、それを解消できるようなそういう場の設定とか、それから、思いを直接に市長が聞いていただいて、それを受け止めて、いい学校作りをしていったらっていう風に感じております。

(植田市長)

ありがとうございます。3点のご意見をいただきました。基本的には、多田委員の意見と同感ということでございますので。2点目の適正規模・適正配置についての考え方として、2つの学校があるというのも選択肢じゃないかというご意見は分かります。そういうことが絶対いかんということで、1つにしていくことが大事ではないかといったことの意味でなくして、例えば室戸市の場合を考えて、室戸に統合される中学校

が室戸にできる、一方、選択型として佐喜浜に少し規模の小さい学校ができるということ仮定したとしても、羽根や吉良川の方が、室戸を越えて佐喜浜までその学校に行けるだろうかといったような、これは、羽根の方になってもそうですけども。そんなこと状況を不安に思っている保護者の方々に対して、2つ選択するとき室戸とどこかに決めないかん。そうした時に、学校として成り立つような運営経営ができていくだろうか、といったような物事を、私なりに現実論として、考えるところも実はあります。それと、佐喜浜の方のご意見の中の心配事としては、中学校に通わず距離が遠いと言う意見も少なくありませんでした。あるいは、国道を通学している時に地震が来たらどうなるのか、津波が来たらどうなるのかといった不安の意見もありました。これも本当に保護者としてはあって当然の意見ですし、そのことは行政としてもきっちりこれからの対策の中で、取り組まなければならないんじゃないかなということとあわせて、高知市内でも20分ぐらいかけて通学されている子どもたちは少なくないと聞いております。もし室戸の真ん中に1つの中学校になった場合、羽根と佐喜浜は大体同じ距離で、55号線を通学してくるという、同じような環境に置かれます。両者に向けて、どうした安全対策を取るのか、その通学時間をどのように有効的に活用できる施策を講じるのか。子どもたちの教育で、人づくりの向上になるようなことの充実強化っていうのは不可欠で、1つになる学校作りに向けた期間に、そのご心配をされている保護者の方々の意向は今、和泉委員からご指摘もあったように、寄り添って対応してもらいたいということは、しっかりと受け止めて、頑張っていかないかん課題じゃないかなということを思っております。それと何度か私も地域の説明会に行かせていただいて、今、早急に決定しなくてもいいんじゃないかという、ご意見もありました。パブリックコメントの中でも佐喜浜の方からのご意見もありましたけど、どこかで決定はせないかんということと思うと、これを1年延ばし2年延ばしして、また10年の1校統合になるのを先延べしていくということでもいいのかということと、子どもたちの活動を考えた場合に、一定の子どもたちの活動の中で教育をしてもらうという環境が大事であるということも1番に私自身が思っております。しかも、この4年間かけて担当の職員は随分地域にも行って、叱られたり励まされたりする意見も受けながら、教育委員の皆さん方にもこうした結論を示していただいたといったことは大事に受け止めて、地域の方々にこういったことで、その方向を決定させてもらったんですよということをお話をさせてもらう中で、今後の1つの中学校の在り方についての意見はしっかりと受け止めて対応もできるようなことを、取り組んでいかなければならないというのが今の状況でございます。

(和泉委員)

地理的なことですけど、教育的条件を考えた時に、佐喜浜と羽根は室戸を中心にした場合の距離は同じです。ただ羽根は中芸に近い。そして選択肢が、例えば室戸中1校のみで、そこで登校できるか不安になってしまった場合、転校したいとなったら中芸

地区の方とか安芸の方へ行くことは可能なんです。でも、佐喜浜はそうではない。地理的条件が違うということは、頭の隅に置いてほしいなっということも思います。私、保護者の生の声を聞いたり、それからパブリックコメントを見て、すごく熱い思い、そして今まで子育てをしてきて、それから今またその統合の時期に対象となる保護者さん、その方が自分の子どもはこうやった、だから次の子どもも人数少なくてもこうしたい、という思い。ということは、そこは何か数だけで量れないものがある、そういう風なことは思います。こういう風な地元の強い意見が出ている中で、ちょっと心苦しいところは、やっぱり行政と地域がもっと、お互いが納得できたら、自分たちも1つの学校を作るということ、保護者も行きますっていうそういう形に、佐喜浜の保護者の方になっていただきたい。そのために、今まで行政もたくさん説明会とか夜遅くまで回数を重ねていただきました。だから、統合に向けてそういう風な機会を持っていただきたい。そういう風に思います。

(植田市長)

一定の方向性を僕の思いとして、決定をするということになると、そうした考え方を基にして地元の説明会をさせていただいて、1つにするんやったらこういったことを配慮してくださいねとか、こういった問題があるので解決してくださいよとか、様々な意見が出てくると思うんですよね。それに向けては、これから10年の開校までの期間に地域としっかりとした協議を持って、より理想的な学校のあり方というものを見出していくのかなという風に思っています。

(和泉委員)

やっぱり保護者さんは気持ちよく子どもたちを送り出したい。そしたらきっといい学校ができる。そのために佐喜浜の特に反対の、猶予期間と言いましょとか、そういう風なこともどうかな、と思います。それは市長のお考えですので、またよろしく願いします。

(植田市長)

ありがとうございます。できるだけ、意見を吸い上げながらできることは対処していかないかんじゃないかという覚悟を持っておりますので、積極的に地域の方々の声も聞きながら、理解をしていただけるようにと思っています。

(多田委員)

今まで散々高台移転を早く早くと言われて、なんだかんだ延びてきたので、もうこれ以上引き延ばすことは得策ではないと思います。早く子どもたちの命を守るために、高台移転っていうことに関しては、本当に早くやっていただきたいと思います。あとは、1時間っていうのは、十分通学できる通学圏内、範囲内の時間だと思います。街の方じゃ当たり前前の時間ですね。ただ、室戸に関しては交通手段がないっていうのがネックになっていますけど。

(植田市長)

そこはかっちり、今よりもっと効率がよいような形に。例えば、早く帰りたいと思ったり、クラブで遅くなる人もおったりするような問題が出てくる。皆さんの声を聞きながら、より理想の形のものを生み出していかないかんじやないかなということ、今、思っております。1つになったら、今思ってることよりも、まだはるかに思いもしなかったような物事が出てきたりして、課題が見えてくると思う。それを乗り越えていかなければ統合中学校の魅力も見出せないと思うので、しっかりと対処していかないと、逃げることは決してありません。今までもそうでしたが、職員の皆さんも本当に体張って、子どもたちの教育により理想的にいい考え方を基にして、教育委員の皆さん方にも今回決定していただいたような方向になったと思いますので。そのことはこれからも10年の開校に向けてしっかりと、そうした心配をする、あるいは反対の方の意見を捉えながら、どうしたら理解してもらえるのかということとは緩めずに議論を深めて対処していかなければならない課題じゃないかなと。

(植野委員)

ちょうど私の子どもが令和10年の4月1日から、中学1年生になって、この統合中学校の1年目になるんですが。私は最初から、統合には賛成の意見を言わせてもらって、でも、その間、地域の説明会とかに出席させてもらって、反対された保護者の方が、やっぱりたくさんいろんな思いがあって、何度もその会に参加してくれた方もいらっしやって。すごく、その反対の理由を聞いても、納得する理由がほぼあったんですが。今回、統合中学校として開校するという事に決定したことで、その強く反対されてた保護者の不安な思いを汲み取って、それに対応してもらえるような、新しい統合中学校にしていただけるように期待していますので、よろしくお願ひします。

(植田市長)

ありがとうございます。先ほど申し上げました通り、賛成をされている方も、今賛成という風に思っている方も、1つになった時の方向性がだんだん明るみになって、不安が出てきたりする。課題なんかも逆に見えてくる可能性もある。議論することが基本になると思うので、賛否問わずに議論はいつまでも遠慮せずしっかりと深めながら、できるだけ子どもたちのためになる学校にしていきたいと思ひますので、ぜひいろんな角度から聞いた意見を教育委員の皆様には、行政の方にも挙げていただきたいと思ひます。

(百田教育長)

今、本当に子どもたちが頑張って、先生方も本当に精一杯努力して、地域の方々や保護者の協力をいただいているんです。今の教職員の配置を見ても、20代、30代、40代の先生が1人もいないというような学校もござひます。経験年数のバランスも含めてこれから専門的な力をつけていかなければならないと思ひます。中学校の複式というのは1人の子どもがいたら、教員とマンツーマンで授業を受ける。しかも、1人の教員が3教科、4教科を受け持つことになるので、1日の授業の半分以上が1対1とい

うことになります。その辺りも、その子にとっていいのかなというのを考えるところがあります。いろんな考えがあって、心配がいっぱいあると思いますが、そこは、これからの4年間の中で、学校作りに、賛成、反対の意見があっても一緒をお願いしたいという思いがあります。

(小松主監)

ありがとうございます。

(多田委員)

移住促進されていますね。移住者が移住先を選ぶ時に、学校があるかとか、病院があるかとか、そういういろんな条件の中に、何もないところにはあんまり行きたくないと思いますけど。

(こども子育て支援課長)

令和5年度課が違うのであれなんですけど、今までの流れでいくと、学校がどこにあるかとか、子どものこと考えたらということもあるんですけど。やっぱりお父さん、お母さんの職場が近いとか、あと、佐喜浜で言えば移住体験住宅があって、そこで体験をされた時に地域の方にすごくよくしていただいたとか。職場を紹介していただいたその地域が大好きになって住まわれる方が多いです。椎名、三津、高岡でいうと、既に岬に学校はない。ないですけど、やっぱりその地域とか、その職業に触れて、そこに住まれている方が多いです。

(和泉委員)

佐喜浜では中学校がなかったら移住者を呼びにくいって、そういう意見が保護者さんから出ています。よそから入ってきて、地域がすごくいいからと言って、移住されて、長い間住まわれている方がたくさんいます。統合ということで市長にお願いですが、特別支援の子どもさんもおいで。そして、その学校環境に応じて、その学校で生活がちょっと難しくなった、そういうお子さんもこれから先出てくると思うんですね。どういう風にその子どもたちを支援するかという体制を、教育委員会、それから各課を超えて、その子のバックアップをしていく体制をこれから今よりさらに強化して、子どもが安心して通える、そしてそれをバックアップする行政のシステム作り、そういうこともぜひこれからお願いしたいと思います。

(植田市長)

教育行政の中で市長部局の方でお手伝いしないといけないところはしっかりさせてもらいます。そのあり方についての基本的な形は、そういう考えのもとに取り組んでもらうような姿勢を見出していったら、それに向けて市長部局の方で、財政的な問題とか取り組みの中で惜しまずに頑張ってくれたらなど。それと、先に移住者の問題がありましたけど、僕自身は子育てをする家族で室戸に移住をしてもらえるような制度を作ってもらいたいという考えで取り組もうじゃないかと。子育てに魅力のある街にすることも基盤やけど、子育てしている家族の方が室戸に行ってみたい街にしてい

くことが大事じゃないかという時に、中学校が吉良川であり、羽根であり佐喜浜であり室戸であるよりも、室戸がこれだけの小さな生徒数の中で1つにまとまったら、室戸の中学校はこうですよということのピーアールができるメリットっていうのは非常に大きくなるんじゃないかなということをおもっています。今室戸高校もすごく頑張ってくれていて、すごくいい取り組みもしているけれども、情報発信力が弱くて、足りなくて、残念ながらそんないいところが、十分に情報発信できていない。このことも課題ですけど、室戸は中学校が1つになったら、そうした視点に向けて全国に発信をしながら、室戸の教育はこんな中学校もあるんですよ、こんな高校があるんですよといったことをアピールできる力にも変えていけるんじゃないかなというようなことを、僕は常々思ってきたような次第です。

(和泉委員)

子育て世代だけを呼ぶっていう風なことではなくて、例えば私の知り合い、高齢者でも親がおったら自分も来て住んだっていう。そういうことがあるんですね。そういう人がまた人を呼ぶっていうこともあるので、これからパートナーシップとかファミリーシップとか、そういう風なことも踏まえて、大きくこの門戸を広げられたら方がいいんじゃないかな。そうしたら、室戸の教育が向上するようないろんな人と触れ合えると思います。

(植田市長)

そうですね。移住は室戸市も随分頑張っちゃんとやってくれてまして、結果も出せてますけど。そんなところに、例えば高齢者をターゲットにするのか、子育て家族をターゲットにするのか、あるいは若者をターゲットにするのか、女性をターゲットにするのか、そんなことを思いますと、やっぱりそれに向けて強調した施策というのを見出していくことで効果が出されると思う。そんなことがあって、今の人口減少、少子化の問題を思った時に、子育て家族がこの室戸で暮らしたいとなるような基盤、整備を進めて、室戸で子育てする時にはこんなメリットがあるんですよみたいなことが言えて、迎えられる環境が他の地域よりも室戸が良かったら、ちょっと室戸を見てもらえるかなみたいな、動いてみようかなという風に思っています。そんなことの制度をこれから充実させていきたいなということを考えてます。そんな中に今までと違う1つになる中学校の魅力化というのも打ち出していける。教育の指導のあり方だとか、クラブのあり方だとか、地域での活動のあり方だとかいうのも踏まえて、総合的に新しい中学校としての魅力を教育委員の皆さん方にもご提案いただいたり、地域の方々の声を聞きながら作っていけるチャンスにしていきたいと。乗り越えていかないかんという腹をくくっております。

(小松主監)

はい。他に意見ないでしょうか。それでは、一旦事務局お願いします。

(山本教育次長兼学校教育課長)

この総合教育会議については、教育委員会が教育の観点から考えて、市長の方は地域の声とかそういったことも踏まえた上で、総合的な判断で方向性を出していく、そこを意見交換をして調整をしていくというような場であるという風に考えております。本日のこの協議を踏まえて、最終的に室戸市の方向性を決めていくこととなります。

(植田市長)

その結論にいくまでに、自分なりの思いとして気になるところがあつて、教育委員の方々にもぜひ意見を聞きながら、対処せないかんじゃないかなということ。パブリックコメントの2枚目の佐喜浜地区の40代の方の声としてあるんですけど、佐喜浜にはいい教育環境があるのに、なぜあえて統合をしなければならんのかといったことを背景にしながら、そうしたことを市が壊さないでくださいと。少なくとも今急いで手足をもぎ取るように壊す理由はどこにありますかという風に尋ねられてるコメントがあるんですね。こういう市民の意見ですから、真摯に受け止めて対処しなければならぬ問題やと思うけど。私はちょっと誤解されているものが背景にあるようなところがありはしないかなということと、説明不足は当然ですけど。室戸市がなんとか少ない子どもたちのために、充実した教育指導の受ける体制を考えていこうという方向で議論をしてるといふことの会で、こうしたパブリックコメントとはいえ、お考えを持って、市に壊されているんだ、手足をもぎ取られるように受け止められてるんだということを、非常に私自身は残念に思っていて。こういう風に出してくれたら、気がついたんですけど、これから一定の方向を決めて我々が地元の報告、説明会に行く中で、そうした視点でものを言われると、ちょっと辛いものがあるなど。それはこういうことだから、こういう風に対処していくっていうことが大事じゃないかなというようなご意見があつたら、ぜひ、この期にアドバイスやご意見をいただけたらなということをも、実は今日この機会に皆さん方の意見も聞けたらなと思つて、チェックしながら探して見つけましたけど。なんか耳に突き刺さつて、そうした方の思いを持つて方には違う説明があるのかなとか。なんか理解がもらえる状況が、どこまで行つても見出せないような感じのような意見に捉えてしまったんですね。すごく印象に強く残つて、ここはやっぱり対策が必要じゃないかな。市が壊す、手足をもぎ取るっていうのを、説明会の中で十分意見も聞かせてもらつてるといったことなんか、この方には見えていないのかなという風にも感じるし。そうしたら、やることに対する反感だけの思いではないようにも取れるし。結構、私にすれば重たくつて辛い意見かなと。

(多田委員)

一種言葉のあやみたいなところもあると思つています。それだけ、辛いんだつていうことが言いたかつたんじゃないかと思つています。1つに統合して、生徒数が増えて、先生の数も増えて、充実した教育ができて、部活の選択肢も増えて、いいことたくさんありますけど、田舎の小さい学校ですので、学力にしても、部活にしても、大きい学校には、到底かなわないわけで、逆に、室戸にしかないもの、海があつて、山があつて。

それぞれの地域で反対されている方は、今まで培ってきたそういうものが全部1つの学校でとてもいい学校になりますよってという文句の中に抹殺されるっていうことに対する不満っていうか、そういうのがあるんだと思います。

(植田市長)

佐喜浜の方で佐喜浜のことをものすごく評価して、素晴らしい状況が今あるから、それを壊さないでほしいということなんです。

(和泉委員)

多分そういうことだと思います。佐喜浜の説明会に出た時に、これは文章ですが、思っているのがその場でおったらものすごく伝わって来る。2回目の時は保護者さんだけだったので、私出てなかったですね。1回目の時とか、暑い中、夜10時ぐらいまでやりましたか。多分これはもう切実な思いだと思うんですね。多分そういう風な思いの方はたくさんその説明会でお話されたんで、今市長が思うその思いは保護者の思いですので、それを受け止めて次の学校作りっていうことをしっかりやっていただきたいと思っています。多分書かれている方は、これ今見たら、佐喜浜っていう地域性だから、そこで自分たちは子育てができる、地域の方に自分たちの子どもも見てもらえる、声がかかる、どこの子かわかる、だから安心して子育てができる。学校もそこだけでは、できないような教育もある。地域学習もある。ひっくるめての思いと思うんですね。だから、私はその保護者さんの生の声っていう、町歩きよったら声かけられて、なんとかかんとかって、こうお話しされる保護者さんですとか、そういう風な生の声を聞いているので、これ読んだ時には、説明会の時の雰囲気すごくわかるんですね。だから、実際、説明会に出て話しをするのと、文だけ見てって言ったら、随分感じが違うと思うんですよ。佐喜浜1つ残して、それからっていう風な話。歩み寄る行政としてっていうのは、こういう方々の思いを直に受け止めているから私は言えるんです。これを読んだ時に、自分は地域の教育委員として同じぐらいの思いを受けています。保護者の立場から見たら、私は教育委員会側ですので。すごく思いを受けとめています。今、このことをご覧になって、すごく責任の重大さってことが、私は感じられて、良かったなって思いました。これが、もう意見なんです。

(植田市長)

自分としては、このコメントで文章で見ただけで、いろんな感情があったようなことやと思うんだけど。なんか身がえぐられるような、そんな思いになって。これから、そのことの方を決めて地域に入っていく。今僕がこう身をえぐられるような思いになったっていうのは、市が壊そうというようなことなんかは、当然意見の違いがあっても良くしていこうということを、教育委員会も室戸市政も、その方向を議論する時に、壊すという風に市民に受け止められちゃうのかなという思いを、かなり強烈に受け止めました。

(和泉委員)

でも、そういう思いを受け取って、これから新しい学校、特に何かに特化した学校っていうか、子どもたちが不登校もなく当たり前に通学できて、そこで当たり前で教育を受けられる、先生方もそうですよね。安心して授業ができるそういう風な、本当に当たり前の学校。安心して子どもたちが通う学校作りっていう風なことで、いろんな意見が出たからこそ、次のステップへの学校作りが深まっていくっていう方向にもっていこうかと思ってますと、説明会の時にはまた説明してください。

(植田市長)

わかりました。ありがとうございます。かなりインパクト強く受け止めて、なんか説明の仕方が悪いというよりも、職員がこれだけ頑張っていて、反対でも真摯に聞きながら会を重ねて、4年間ずっとやってくる中の最終的な段階に来て、こういった受け止め方をされてる方もまだいらっしゃるのかなっていうのは、ちょっと辛いと感じましたので、ちょっと発言させてもらいました。ご意見を聞きまして状況は理解して、今後活かしていかないといけないと思います。また、よろしくお願ひします。

(山本教育次長兼学校教育課長)

この議論を踏まえて、最終的に市としての方向性を決定をいたしますので、これからよろしくお願ひします。

(小松主監)

次回の総合協議会の開催について、事務局からの提案をお願いします。

(山本教育次長兼学校教育課長)

今年度につきましては、本日の2回目の会議を持ちまして、今年度の総合教育会議については終わりたいと考えております。令和6年度につきましては、日程等は未定なんですけれども、2回から3回開催をしていきたいという風に考えております。詳細等がまた決まりましたら連絡をさせていただきます。

(植田市長)

今年度の総合教育会議が今日で最後であれば、今日この会で私の意思を明らかにした方がいい。

(山本教育次長兼学校教育課長)

調整の場ということで、持ち帰って判断されることもできますし。

(植田市長)

説明会は、すぐまた地域全体へ行きますので。教育委員会の方から今日の報告を受けて私が最終的に決めます。市長としては、当初からずっと言ってきたように中学校は10年に4つの中学校を1つにして開校していくため、市民の理解を得られるような、最善を通じて取り組みたいという思いです。今回の会議の中で教育委員の皆さん方のご意見も意見交換させてもらって、その取りまとめたことに対しても意見を出しあって、私なりの思いも聞いてもらって、今日の段階の判断として、僕は、室戸市は、統合中学校を10年開校に向けて調整をしていくという方向で、皆さん方にもご協力を賜

りますようお願い申し上げます。議会の方にも報告をしていく機会を持ちますので、そこでのご意見もあろうかと思いますが、今回の会議の中で、教育委員会の方のまとめを基にして、自分なりに判断をして、1中学校として行くということとさせていただけました。よろしく申し上げます。

(小松主監)

ありがとうございます。来年度の総合教育会議については、年に2回、もしくは年3回で事務局の方で検討させていただきます。日程については後ほど事務局から連絡をさせていただきます。他にないでしょうか。

(多田委員)

すいません。毎回同じこと言ってるんですけど、奨学金のことです。給付型と対応型とあって、室戸は給付型はされてないですよ。帰ってくる条件付きでっていうことはありますけど。給食費の無償化っていうのもずっと言ってて、今、無償化になってるじゃないですか。今もう時代がそういう方向に行っている。給付型の奨学金っていうのも各地であるし。奨学金に関しては、成績がいいとか所得が低いとか、なんらかのそういう縛りがあって、真ん中の層っていうのはぽっこり抜けてるところもあるので、ぜひ、そこらへんを補える給付型っていうのを、ご検討いただきたいと思います。以上です。

(植田市長)

はい、ありがとうございます。

(小松主監)

他に何かございますか。

(和泉委員)

以前の定例会の時に出して、1年ぐらい前ですか。広報に各中学校の実践活動みたいなのを出したら、室戸市内の中学校はどういう風なことしているかわかる、っていうことを話したんですね。でも、紙面の都合上、なかなか難しいという風な返答なんです。室戸高校はずっと載ってますよね。室戸高校も載せるのはいいんですけど、公立の小中学校の取り組みとか様子みたいなのがあったら、これから先、統合される学校が何をしてくるかってことは、保護者さん、地域の方もわかっていいんじゃないかと、そういうことを思います。保育園でしたら、この保育園はこういう風なこと目指していますみたいなことが、募集の時に載ります。そういう風なことで、佐喜浜中学校やったら、防災の県の指定を受けて、地域と連携してこんな活動していますとか、そういう風なことを載せる、そんななことちょっと考えていただけたらなど。

(植田市長)

大事なことじゃないでしょうかね。学校の特徴をもっとアピールしていくべきじゃないかってことですよ。

(和泉委員)

そうですね。4校これから一緒になるわけですね。そしたら、ここの学校がどんなことを今までしてきた学校やろうかということが、地域の方も保護者さんも、広報を通じて共有できる場所があると思うんです。

(植田市長)

はい。また対応を考えてみます。

(小松主監)

他に何かございませんか。

(植田市長)

学校も1つになるための情報交換をして、いいものはやっぱり1つになっても、その体制を持っていきたいなと思います。

(小松主監)

よろしいでしょうか。それでは、本日の議事を全て終了させていただきます。以上で令和5年度第2回総合協議会を終了いたします。お疲れ様でした。ありがとうございました。